

平成 21 年 6 月 1 日発行
第 141 号

康寿診報

編集 / 発行 医療法人社団 康寿会 加藤内科医院

〒421-0301 静岡県榛原郡吉田町住吉 303-1

Tel: (0548)32-0701 緊急用:090-1758-1712 Fax: (0548)32-1280

「後悔しない為に、今 申し上げること 榛原病院問題・プレミアム商品券は」

“質”を考え、毅然とした言動、後退せぬ責任 その

人口 3 万人我が町吉田町、そして旧榛原町と旧相良町が合併して出来た牧之原市、この榛南人口 9 万人程の地域支援病院として機能してきた榛原総合病院。吉田町・牧之原市は、この存続説明会を牧之原市(2/28)・吉田町(3/18)で行った後、地元の医療現場この声を汲み入れる姿勢を持たぬまま、具体的な方向性を示す報道は無く「黙秘の時間」3 カ月が経過した。6/12 何かしらの報告が医師会にあると聞くと、現状の窮境を切り盛りしている榛原病院の現院長すらも、経営問題の会議への出席を許されず、口を挟む余地も無いと聞く。

地方自治のトップは、230 億円から更に膨大する総負債が表沙汰となり「夕張市以上の財政破綻」を招く現実を、如何にか先送りしよう「資金がショートする前に、内科の医者を 5~6 名招聘して」とその場凌ぎに躍りになっていると聞く。委託された紹介仲介業者が足元を見たら如何様の商談をするであろうか。「如何程かの成功報酬は成功すれば取るし 失敗すれば 0」「交渉はその分辛口で・・・」基本スタンスはそんなであろう。

以下は、田村典彦吉田町長の昨年未の職員に対する挨拶(静岡新聞 2008.12.27. p15 掲載)内容である。「明と暗のコントラストがはっきりした 1 年だった」「変化のスピードが速いので、常にあらゆることを想定して対応してほしい」「場合によっては直接トップに数字や事象について伝え、自分なりの解決策も一緒に示してほしい」「税収の落ち込みなどで来年はいろいろな意味でピンチ」「ピンチだからこそ事業の取捨選択や規模の見直しをするチャンス。スキルアップを図り、来年も十二分に力を出してほしい」以上、話されたという。

吉田町は 2007.10.15. 町内の一般新聞の朝刊折り込み「若返り貯筋塾参加者募集！」の案内 9,000 枚を数十万円のお金を使い配布した。私はこの件について公

私の場合で何度も町長に直接問い質した。会議で「証拠を示せ」とトップが催促したので、忠実に指示に従いアンケート(康寿診報 124 号 P5)を施し結果報告した。

私は、過去何年にも渡り、田村典彦氏が適確に把握出来る為に、正確に必要な生の情報提供に十分努めた。

この程、「榛原病院の問題」については沈黙の吉田町が、血税 2 千万円を使い「額面 11,000 円の商品券『吉田町プレミアム商品券』を人口の 6 割の数 18,000 セット発行」の企画。榛原医師会にも「診療の窓口で扱いを...」と依頼に来る有様。「裁量権の範中」「議会議を...」何が「事業の取捨選択」「規模の見直し」だ!/?

「ハゲタカ」の映画が物語る。現場には現実が存在し、人と金が動いている。そして医療の問題は、素人の地方自治のトップが、現場の専門家と相談も無く、けりを付け 仕切って交渉できる甘い世界ではない。浜松医大の内科以外の医局員が残った中で、営利優先の度合いが大きいと思われる医療法人、彼らが送り込む内科医が「開拓できる環境」を、議論の場を持たない行政が創れる状況は無い。本筋は「230 億円の総負債に対し特例債の発行」等の策を急ぐべき。しかし今「売げ鷹の餌食」になるのを見守る状況。忍び難いが冷静に見届け、今出来ることを、限られた時間で最大限にする。

ここ数年 数カ月の間に、多くの刺激が与えられ、物が壊され、テロ的行為を受ける状態。怒号等に慣らされた。私は、怯えて引く後退はやめた。狼少年に対する処世術を、正攻法で、何者かに導かれ身に付ける。大切なのは 同士の人間関係、そこから始まる。

何より目前の一つひとつの現実問題解決が先決。この為に 保健医療会議の内容(康寿診報 138 号 P2,3 参照)等、生活に直結する事を何度でも陳情する。加藤寿夫

今月号は 吉田町長 田村典彦氏 牧之原市長 西原茂樹氏に閲覧の上 掲載しております。

たった一年前、私は医師代表として、町の会議に出席し、こんな議論の中にいた。その

2008.2.29.「平成 19 年度第 2 回吉田町健康づくり推進協議会」、後悔するとすればこの頃である。この時の会議の内容を一部抜粋して下記に示す。榛原医師会吉田町担当理事の立場として、訂正を促してきたが、対応無し。アポイントメントにも応じない状況により、敢えて私から提示する。今 100%の自分で物申し、相手を説得しようと思う。未だに“力”不足であるとしても、相手が上から物申す姿勢であっても、真実は一つ。2007.10.15.「一般新聞の朝刊折り込み『若返り貯筋塾参加者募集/』の案内のチラシ」は、数十万円の血税の無駄使いであるが、今回の「額面 11,000 円の商品券『吉田町プレミアム商品券』」は、血税 2 千万円の投入(60 万都市で 4 億円の人口割合)である。あまりにも良識に欠けている。「過去の過ちは一つひとつ訂正して、事を運ぶ」この反省の姿勢が無いから、ますます血迷った、突発的な・思慮のない、税金の無駄使いがエスカレートしているのだと考える。

また、医療破壊から破滅の状況、一旦は受け入れて、更地にしてから行動するしかない状況のように考える。

町長 田村典彦氏 (田)

田：他にございますか

加藤寿夫医師(寿)

寿：いいですか。あの色々これ事業を今年度から始めるものもあるし やめるものは無いんですかね、今年からなんですかね。過去の実績みたいなものある程度載せて頂いてどれくらいどうだったよってものがないと、全く、どれくらいの規模でどういう風になされてるかが解らないんで、よければそこら辺の事と、あとあの実際にどうなんですかお金の問題はどれくらいの費用がかかってどうみたいなのは、ここでは全然、話されるようなことではないんですかね。ひとつここにあの、どうですかね、何かで僕ら、僕らなりこの会議の人間なり大体どれくらいの規模でどうゆう風に、例えば「健康づくりセミナー」だとか、「若返り貯筋塾」だとか、「幸せヨガ講座」だとかどれくらいの人数の人間がどれくらいでどういう規模でなされてるって事がこれだけだと全然分からないんで、これどどんどどんこれどういう形、もっと促進してやろうとしてるのか、まあ今くらいでやってこうとか、そこら辺のものもちょっと見えてこないと てのもあると思うんですけども

田：実績数値ありますか？

健康づくり課 大石温子統括保健師(大)

大：実績については、まだ実施してる事業もあるもんですからあの、来年度、あの早い時期に、またこの会議の事後報告ということで、させていただきますと思います。

田：この事の実績も出来る限り出せませんか？

大：あ、現状の

田：あ、今言った加藤先生が言った事について、参加人員であるとかそういうことです

大：全ての事業で

田：だから全ての事業でもですけども、今特に加藤先生が

寿：僕ちょっとね、特に僕個人的には知りたいのはあの「若返り貯筋塾」ですけども、去年の確か 10 月の 15 日の日に朝刊で、あの新聞の折り込みにあの、A4 の紙でしたかねカラーコピーで、あの入れられてから始まって、その時に確かひとり 2500 円お金を取るような形で、その後どうなったかの報告も全く無しで現在に至ってますけど、今どのように行なわれてるかって事を、ちょっと聞かせて頂ければありがたいんですけども

田：どうぞ

健康づくり課 課長 杉村勝巳氏(杉)

杉：あの先ほど統括が申しました通り、一応実績の関係につきましては、新年度に入ってから形を要請しておったんですけども、只今そのような質問がありましたのでお答えします。「若返り貯金」につきましては、これあの当初の予定といたしますか公庫事業で実施することが急遽実施となりまして、時期的には遅い時期に始めたものでございまして、緊急に集めましたので、新聞折り込みという形でご案内をさしあげたものでございます。なおこれは 11 月 4 日から 1 回目が 12 月の 9 日まで 5 回行われまして 5 日間ですね。これにつきましては午前中のみの実施ということで 24 人ですね申込者がありました。それで実施を行いました。あのこの関係につきましては当然有料で行う予定だったんですが、やはりこれは健康づくりというのに参加料がなかなかあの合わないということで、趣味とかそういうものでしたら受講料で取って参加するという方が多いというか 通常だったんですけども、こちらが新しい事業をやるにあたって次年度の特定検診のを踏まえた事業ということにもなりますので、え、とりえず参加者を第 2 回目の事も考えまして無料という形で 1 回 500 円をやめまして、無料という形で始めたものでございます。後期につきましては 1 月 27 日から 3 月に 16 日まで、まだあと 2 回残っておりますがこれにつきましては、午前午後という形で 2 回を、1 回目を PR そういった形である程度終始できたと、2 回目は午前午後の参加者がありました。で、申込者につきましては、午前中の部が 25 名、午後の部が 22 名。あの当初の予定では 30 名程度を予定してましたので、まあ 25 名程度が、一番適当かなと思ひまして順調に進んでおります。以上でございます。

田：よろしゅうございますか

寿：いいですか？

田：どうぞ

寿：あの一つね色々問題になると思うのは、「新聞の折り込みに入れた」という点と、新聞の折り込みに入ったものを今ここにありませんけども、「その内容が十分に理解されるようなものじゃなかったんじゃないかな？」という事と、あと「2500 円っていう値段を設定」してそれが「集まらなかったんですね？ 要するに」。

杉：結局は午前中

寿：うん、それで

杉：予定してた数字は集まらなかったということです。

寿: 2500 円あの、取らなくてもやるっていう事をまた決めたって、そこら辺は健康づくり課の中で決めてされたことなんですか? あとこれをそんなに急いでこの時期に、新聞の折り込みまで入れてやらなくちゃいけなかったような理由だとか、そこら辺全然見えてこないんですけども、いかがなものでしょうかね?

杉: これにつきましては、先程も申しました通り、当初タダ、次の日やるものが、事情によりまして、一般会計の方へ移ってきたというのがあります。それで、ですから時期的にも実施予定だったものも振替という形になります。で、ましてや健康づくりの観点から次年度からメタボリックシンドロームということで特定検診が始まります。それを踏まえたとでの健康づくりに対する意識を高めようということでございます。それで全自治体のもので、健康づくり課独自で計画したものではありませんので、町と協議した中で決定したもので議会の議決も得て実施しておるものでございます。従いまして、確かに申込者時期的なもの、当然冬場でございますので参加者等少なく、まあ高齢者も含めたものでございましたので無かったということです。当然今回のものが、次年度に継続されるものでございますので、かなり口コミ等で広がっております。一般的にもこのストックウォーキングというのが広がってきておりますので、十分これからも期待できるものではないかと思っております。

田: よろしゅうございますか?

寿: 「2500 円最初にお金取ったもの」は返したの?

杉: いやそれは頂いておりません

寿: 全くもらってない

杉: 最初実施する関係で、2 回目 3 回目それから今後の予定もございましたので、1 回目から取るのは最初の申し込んだ方については、初日です無料ということでお話をして全て無料で実施しております。

寿: 「問題点」はどこにあったと思いますか? 「問題点」

田: 「問題点」っていうのはどういうことですか

寿: だから「2500 円でやるかな?」っていう健康づくり課なり町の考えと住民の感覚との解離がかなりあったよっていうことは、事実ですよ? それは

田: データはあるですか?

寿: うん?

田: データは

寿: 誰も参加それでしなかったわけですよ

田: いやしかし、で、で

杉: あの 500 円、結局 1 回 500 円で 2500 円ということで最初参加された、申し込まれた方でですね。24 名でございます。ですがそれ以上要するに効果を上げるためにもっと募集...

寿: それだけで最初の折り込みだと 2500 円、2500 円としかみえなくて、あれ作ったのも結構問題だと思うんですよ、内容が。2500 円でどれだけのことをしてくれるんだっていう内容はあれからは、どこの方がどういう風に作ったか、「分からない」「読み取れない」ですよ。そこら辺から健康づくりに、どれだけお金を使うのであれば、健康づくり課だけでどこでどういう風に企画されて、どうか? 僕ら全然知らないんですけども、もうちょっと、この会なりなんなりにオープンにされた上で、やっぱり住民の意見としてはこれ「2500 円じゃちょっと無理だぞ!」っていうことはあったと思うんですよ。最初から、あったと思うんですよ。実際の折り込みを私が知りまして、次のあのその次の折り込みが出た次の次の日ですかね。吉田町、あの医師会の会長の小田原先生が役場に行かれて「これどういう事なんですか?」っていう事を問い合わせたみたいですけども、誰も対応して頂けなかったみたいなんですけども。実際だからもうちょっと、これいくらなんでもこれ 2500 円ですってのは無理だと思うんで、住民の意識はとてそれやるような人いないんじゃないかな。またこの内容があまりにも伝わってないところで、これを「新聞の折り込みにゴイって入れちゃうっていう感覚」が、そういう一つひとつのこういう色々な事業ありますけども、一つひとつ訂正するものは訂正していかないと、かなり 2500 円あの折り込みを新聞に入れたってことでも、幾らですかお金、かなりのお金がかかっているようなことを、町の財政で、税金ですすよね、やってくる事は事実なんで、それ「2500 円で集まらなかった」って事も事実なんで、それはやっぱり町の方として「町の感覚と住民との感覚の解離」がかなりあるぞっていうことは健康づくり課も解って、次の行動を起こしてもらわないとっては、あると思うんですけど、いかがでしょうか。

田: 先生。私この町の執行責任者でございますけども

寿: はい、はい

田: お答えしませんが、2500 円というのはですね、基本的に色々な人の意見を聞いて 2500 円と定めたわけでございますし、その「健康づくりの貯筋塾」について折り込み広告であるというのもですね、これ「行政の裁量権の範囲内でございます」んで、それについて先生がデータも無くですね、言っ下されるのは非常に語弊がありますので、もし反論されるんだったら「データを付けて科学的」にお願いしたい、それが答えです。先生はいつもですね 2500 円が高いとか、集まらなかった、20 何人集まってるわけですよ。

寿: 20 何人集まったって、お金をこれ 2500 円やめたから集まったんでしょ、じゃないですか?

田: そうでないでしょ

寿: そうじゃないですか?

杉: この方々についてはもう 2500 円と出しておりましたので、その前に少なくとも 20 名くらいの方は知らないで申し込んであります。で、1 回 500 円という設定につきましてはヨガにつきましてはヨガ講座 18 年から実施しておりますが、一応 1000 円で実施しておりますが、それをまあ今回まあ 500 円で形に下げておりますが、その設定料金の考えで始めたものでありまして、ただストックウォーキング事態が健康づくりの分野で考えますと、まあ「一般的でなかったという点」は確かに我々も今考えるところでありまして。

田: どんな事業でもこういうことになると思うんですけども、最初からね、いわばドーン何百人ということは、無いわけで、徐々にそれが口コミでいくと、で今回の貯筋塾ストックウォーキングにつきましても当初は 20 何人だったものが、現在は 50 名近く... 50 名以上の方が集まってきてるわけですから、そういう意味では「私は早期の目的はそれなりに達成している」と思ってますから

寿: まああのいいですか、最後に、「2500 円で料金」はそれ良しとして、「新聞の折り込みに入れた」っていう点が、僕らとて一般の企業では考えられないようなお金をこれだけの事を広報に入れればいいんじゃないかなみたいなことを、町の税金使ってやっていいのかなっていう点と、あとそれ入れるのであれば入れるので入れて、内容があまり「2500 円でどんだけの事してくれるんだよ」っていう内容が伝わってない内容だったっていう点については、町の方としてやっぱりもうちょっと再考をしていただくべきじゃないかと僕は考えます。

田: だからそれについてはね、今言ったストックウォーキング貯筋塾の概要についてもう少し懇切丁寧というのは、それはそれでわ

かりますけども、
 寿：そんじゃあお願いします
 田：「2500 円である」とか、そのいわゆるその「折り込みで入れた」とかいゆるる不当であるとかそれは裁量権の範囲内でございますので、もしそれが問題であるんだしたら、もうどういってところが問題なんですか。加藤先生の意見を聞かなきゃならないですか。
 寿：いやだけど、広報、広報に普通に載せればいいものをこれは 2500 円でって、2500 円はいいとしても、新聞の折り込みに入れたってことは、町のお金を十何万のお金を使ってるわけですね。
 田：いや、使って
 寿：それは「裁量権の範囲内」でいいって言ってこれ全部こういうものを、ばかばか載せられちゃうような事も、どっかでストップかけないってのはあるんじゃないですか。
 田：それやってないでしょ、やってないでしょ
 寿：やってないか？ これだけ何でこんだけ特別な扱いをしてどうなのかなって事を僕ら全然分かりませんし、少なくともやっぱり新聞の折り込みじゃなくてよかったんじゃないかなってということと、「内容について、内容が十分にあの僕らなり『一般の人が読んでも伝わらなかつたよ』って事は事実として町が受け止めて、これからはどうですよ」という話を、私はこの場で聞きたいなって思ってたんですけども、それはおかしなことですかね。
 杉：あの新聞折り込みの関係ですが、通常は我々の町の方針につきましては 12 日発送の広報等の文章の配達の際に組長さん宛てに届くのでございます。例えばこういった事業の場合ですと広報に載せる、まあ記事的に多くなるもんですから別のあれで各戸配布のチラシを入れます。それにつきましても 12 日という発送日がございますので、当然その休みをはさみますと前後になるもんですから、そのタイミングに合わせて実施するのが一番いいわけです。ですから 2 回目の貯筋塾等に関しましては、文章発送日にですね入れるような形を広報に掲載して、あとチラシにつきましては広報に別途に配布したという経緯がございます。で、あの第 1 回目にそういう形をとったというのは、まあその時期的なもので、予算確定後から間に合わなかつた、行動まで、やむを得ずそういう形で月計で新聞に広く、配布するためにやったというものでございます。広報でいきますと確かに、広報でやると 12 日に出してから、極端に言うとなんか 1 ヶ月はかからないとしても 20 日間位かかる所もございまして。組によりましては回覧という形をとったりするもんですから、ですからこちらが申し込み期間を設定した段階で間に合わなくなつてもいけないということもございまして、そういったことが多々今までありました。それでやむを得ずの今回の措置ということで実施したものでございます。
 寿：内容は、内容についてはどうですか？
 杉：内容については「それぞれの見解がある」ものですから、我々その内容について分からなかつたとかそういった疑問点も聞いておりませんので、何とも言えないところでございます。
 寿：A4 の紙を使って町が何かを提示するって時に、やっぱり内容十分に伝わるようにということを考えてもうちょっとされた方がいいんじゃないかなっていう点はあれ見た時には僕ら考えて絶対的にあるんで、それはやっぱり町の方もしっかり受け止めて、健康づくり課ですかね、受け止めていただきたいと思いますけれども、よろしく申し上げます。以上です。

《勉強会のご案内》

下記講演会の為、7/4(土)に変更となっております。

通常の勉強会は原則第 3 土曜日 13:00 から開催です。

6 月 13 日(土)	イリソ療法について
7 月 4 日(土)	糖尿病とは
8 月 8 日(土)	薬物療法について
9 月 12 日(土)	低血糖について
10 月 3 日(土)	第 79 回 睦会
11 月 14 日(土)	運動療法について

《診療案内》

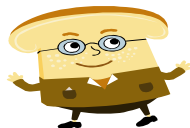
朝 8:00~15 「朝の挨拶」は、タイムリーに必要な情報をお伝えする、皆さんの交流の場です。ぜひ参加して下さい。

診療時間	月	火	水	木	金	土
8 時 ~ 12 時						
15 時 ~ 18 時						

「朝の挨拶」の為 一般診療開始は 8:15 からです。
 午後の受付は 初診は 17:30 まで 再診は 17:45 まで です。
 休診日:日曜・祝日 木・土曜の午後 月末最終日の午後
 受付最終時間 厳守 とさせていただきます。

糖尿病集中勉強会を 7/18(土),25(土)の 9:00~12:00 にて開催します。ビデオ・DVD 学習会の後 医師・看護師・栄養士が質問に答え 対応します。希望される方は、職員まで申し付け下さい。
 ビデオ・DVD 学習会は、別紙予定表にて診療日の午前・午後開催しております。個人の希望にも随時応じております。

《「食べ物の情報 ウソ・ホント~糖尿病と食の情報~」講演会のお知らせ》

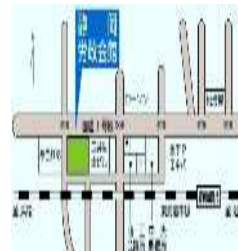


日時： 7 月 11 日(土) 14:00 ~ 16:00

会場： 労政会館 6 階大ホール(静岡駅より 400m)

「ウソとホント ちまた 巷の食べもの情報」高橋久仁子先生

本講演会は静岡県糖尿病協会講演会として静岡県糖尿病協会・ノボノルディスクファーマの共催で行われます。



《臨時休診のお知らせ》

お薬を切らさないようにお気をつけ下さい。

6/29(月) 30(火) 7/1(水),27(月),31(金),8/1(土)は休診です。